



比叡山競書大会で 内閣総理大臣賞を受賞

第50回全国学生比叡山競書記念大会の学生の部で、第2席となる内閣総理大臣賞を受賞した武雄青陵中学校3年生の星本京香さん（山代町楠久津）が、12月26日、深浦弘信市長に受賞を報告しました。

受賞作の『博愛の精神』は、日本赤十字社をつくった佐野常民に関する言葉で、星本さんの作品は、5798点の応募の中から見事入賞。星本さんは、「全体的に柔らかく見えるように書いた。特に『神』の文字の最終画の縦棒が書全体のバランスを左右すると思い、柔らかくまっすぐ書くことを意識した。練習を重ね、納得できる1枚だったので、作品が認められて、嬉しい」と話しました。



↑受賞を報告した星本さん（中央）

生きている化石『カプトガニ』 牧島小学校5年生に幼生引き渡し

●問合先 生涯学習課文化財係（☎22・1262）

2億年前からその形をほとんど変えず、『生きている化石』と呼ばれているカプトガニ。現在、生息数が減少し、絶滅危惧種となっていますが、伊万里湾は日本最大の生息・繁殖地とされており、平成27年、国の天然記念物に指定されました。

市では、教育委員会と保護団体、伊万里高校理化・生物部、牧島小学校が共働で、カプトガニの増殖活動に取り組んでいます。

カプトガニは7月下旬～8月中旬に、産卵のため木須町多々良海岸を訪れます。産卵を終えた8月下旬頃、理化・生物部が、国の許可を得て卵を採取します。孵化したばかりの幼生は、外敵に狙われやすいため、牧島小学校やカプトガニの館、理化・生物部で1年間飼育します。翌年の7月下旬、多々良海岸に幼生を放流することで、カプトガニの増殖を図っています。

12月21日、牧島小学校で、理化・生物部からの幼生引き渡しがありました。このとき、



↑幼生を引き受けた牧島小学校5年生児童（前列）と理化・生物部の生徒

理化・生物部による飼育指導のほか、5年生児童はカプトガニの幼生をじっくりと観察してスケッチするなど、カプトガニの生態を学びました。今回引き渡された幼生は、7月下旬、児童たちの手によって多々良海岸に放流します。そして、約十数年後、放流した児童が大人になったころ、カプトガニは産卵のため多々良海岸に戻ってくるでしょう。

牧島小学校の児童は、カプトガニの飼育を通じて、命の大切さや伊万里湾の環境問題など、さまざまなことを学習しています。「カプトガニ」は、伊万里独自の貴重な教育資源となっています。

郷土の文化財

伊万里・鍋島ギャラリーの名宝⑩

●問合先 生涯学習課歴史民俗資料館（☎22・7107）

色絵梅流水文皿（鍋島焼）

今月は、色絵梅流水文皿を紹介いたします。1660～1670年代に作られた鍋島焼です。

器形は内ぐりが浅く、高台が高くなつていて、初期鍋島の作品で、直径14・8センチの五寸皿です。

鏝状の口縁を持つ輪花形の皿で、皿の周囲に沿って、梅流水文が描かれています。梅は、寒い季節に花を咲かせることから、鍋島焼ではよく用いられるおめでたい文様の一つです。

濃い染付による流水と、初期鍋島の上絵に特徴的なやや暗い赤の色調の梅花が印象的で、中央の素地の白さが、際立っています。

この作品と同様の図柄の陶片が、大川内山の日峯社下窯跡で出土しました。大川内山の鍋島藩窯で作られ

た盛期鍋島より前の初期鍋島が、日峯社下窯跡で作られていたことが明らかになったのです。

裏文様は、染付で描かれた唐花唐草文を三方に配し、高台には、鋸歯状の文様をめぐらせています。

小品ながら、鍋島焼成立の謎を解く鍵を秘めた貴重な名品です。

●伊万里・鍋島ギャラリー
※入館料は無料です。

（☎22・2267）



→色絵梅流水文皿